様式1 # 令和6年度　山梨県立あけぼの支援学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

山梨県立あけぼの支援学校校長　相山　洋幸

本年度の重点目標	
	1　児童生徒の可能性を発見し、発達を支援する教育の推進
	2　安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育の実践
	3　共に豊かな人生を共有する教育の推進
	4　教職員が働きやすい職場環境づくり

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（1月29日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒の可能性を発見し、発達を支援する教育の推進	ICFを活用した学習活動とその資質能力を獲得させるための教育課程の検討	個別の教育支援計画の検証	・前年度の引継ぎと日々の指導を基に、児童の実態を把握し、前期・後期の指導計画を作成できた。 ・教育課程委員会が現状と課題を整理し、よりよい教育課程の編成に取り組んでいるむことができた。	B	・次年度も適正な人数のグループで児童の実態把握をし、指導にあたれるように編成を考えていく。 ・継続して専門家活用や外部支援を活用して、個々の児童の指導に生かし、支援計画や指導計画を見直す。 ・高等部卒業後を意識した指導を実施する。 ・評価方法を見直し、実態に応じた指導計画を策定する。
		新学習指導要領に基づいた児童生徒に育成すべき資質能力育成のための教科指導の検討	個別の教育支援計画、個別の指導計画の検証	・新学習指導要領に基づき、研究と連携した指導計画を立て、実践できた。 ・グループ研究を通じて、複数の視点から学習指導要領、指導内容を検討し、実践・検証することができた。 ・特別活動や児童生徒会活動を通じて、児童生徒の自主性を促進した取り組みができた。		・研究等と連携し、実態把握、教材、授業展開など教員の専門性の向上を図れるとよい。 ・情報収集を基に、指導計画の具体的な活用方法や形式を教育課程委員会での検討、実態把握と教育課程の判断の仕方を探る。
		個々の児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの実践	一人一実践の取り組み 専門家等の活用状況	・情報教養部と連携し、iPadのアプリやスイッチ機器を活用し、絵画、音楽鑑賞、計算など多岐にわたる学習活動を実施し、児童の理解を深めることができた。 ・遠隔授業記録シートを活用し、実践内容を記録・共有できた。 ・オンラインでのつながりにより、訪問生と通学生が意識しあえる取り組みができた。		・児童生徒の実態に応じたICT機器の利用やオンラインなどを活用し、児童生徒同士のかかわりを意識させるようにする。 ・ICTを活用した分かりやすい授業、視線入力や遠隔教育を活用等、より深い指導につながるICT機器の活用を探っていく。
		キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進と卒業後を見据えた系統的な進路指導の充実	学校評価アンケートの検証 保護者との連携状況	・卒業後の進路を意識した指導を行い、学部会や校内研究・研修を通じて、実態把握や目標設定、支援方法、評価を共通確認しながら取り組むことができた。 ・キャリアパスポートの活用を推進し、進路指導を充実させることができた。		・「卒業後を意識した指導」については共通認識を継続した指導を行なっていく必要性を感じる。 ・キャリアパスポートは現場実習ノートとの統合や活用の見直しをする。 ・小学部段階からの保護者の事業所見学への参加を促し、情報提供や意識付けをしていく。
2	安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育の実践	危機管理マニュアルの再検討と、あけぼの医療福祉センターと連携した整備計画の立案	危機管理マニュアルの再検討、各種訓練の実施と検証 学校・センター連絡会の実施と検証	・警備防災計画と消防計画を提出し、警察署や消防署などの各種機関との連携で円滑な運行が図れた。 ・水害の際の避難計画を提出し、避難訓練等を通じて職員の緊急時体制を随時改定し、全体で共有できた。 ・災害時の対応について、あけぼの医療福祉センターとの連携会議を実施し、情報共有ができた。	A	・スクールバスの安全運行、体制整備及び各種機関との連携を図っていく。更新事項が出た場合には、年度ごとに避難計画を提出し、避難訓練等を実施して体制の共有及び改善を図っていく。 ・災害時の対応について、あけぼの医療福祉センターとの連携会議を継続、定期的に実施する。 ・緊急時対応検討会を継続し、センター医師と通学生の状況を共有する。 ・教員の特定行為実施に向けて検討する。
		事故防止に向けたインシデント・アクシデントの報告・分析と、解決策・予防策の周知及び実践	インシデント・アクシデント記録の蓄積 教職員間の情報共有、意識化の検証	・インシデント・アクシデントで提出された事例を分掌内で分析し、改善策を職員会議で提示し、朝礼のリモート画面で注意を促した。 ・プールでの緊急時対応シミュレーションの実施や環境防災係の安全点検の際、インシデントの事例を集め、レベル0の事例を収集できた。		・プール学習の前に危険予知を行い、インシデントのレベル0の事例を集め、安全な活動を行う。各グループからの1事例提出に取り組む。 ・感染症予防に関する相談は指導医に確認、感染症対策を継続し、校内の広い範囲での蔓延を防ぐ。 ・コロナ感染に対する対策はあけぼの医療福祉センターと確認を取りながら適切に対応する。
		食形態や接触指導に係る学校全体でのスキルの維持充実と安全な給食指導の実施	外部専門家の活用状況 給食委員会での検証 摂食指導カードの記載内容状況の検	・学校全体での外部専門家の指導で自立活動研修会、摂食指導研修会を実施し、教員の専門性の向上を図った。 ・安全な給食指導を実施し、摂食指導医や栄養給食科と連携してより良い給食指導につなげた。 ・見本食を復活させ、食形態、食具、姿勢等児童生徒に合った方法を提案し、安全な給食指導を実施できた。		・学校全体のスキルの維持充実に努め、専門家からの指導・助言を参考に各種研修会を実施する。 ・校内巡回を積極的に実施し、あけぼの医療福祉センター栄養給食科と連携して安全な食事の提供を行う。給食選挙を実施し、充実した食育指導を行う。栄養給食、保健係、事務室と連携し、安全対策を継続する。
3	共に豊かな人生を共有する教育の推進	本校の特色と専門性を生かした地域支援活動の推進	各種アンケートの検証	・専門部連携会議実施に向けて他校との連絡調整、協力を行った。 ・地域支援部による年度始めの挨拶や地域支援だよりの配布を通して関係の構築、センター的機能についての周知ができた。 ・自立活動係と地域支援係が連携し、外部専門家を講師にした職員向け研修会を実施できた。	A	・連携会議参加者アンケートの分析から小中学校支援級のニーズを把握し、次年度の企画へ反映させる。 ・地域支援だよりの配布方法をHP掲載などに切り替え、地域支援活動を推進する。 ・個人情報公開の可否、感染症の状況を確認しながら、交流会を計画する。
		病弱に係る高等部入学希望者への支援の推進及び就学相談の充実	入学相談、就学相談の状況の検証 市町村教育委員間等、関係機関との連携状況の検証	・オープンスクールにおける周知や、病弱対象の高等部入学を検討しているケースについて、本校で提供できる教育課程、環境、配慮などを説明することができた。 ・多くの先生方が専門家を活用した相談の場を持つことができた。 ・高等部中心に病弱の教育課程について検討した。		・病弱に関わる分野のコーディネーターの資質向上を目指し、専門家を活用した相談の場を提供する。 ・病弱生徒の転入学に対応するため、教員研修で専門性を高め、受け入れ体制を整える。
		学校ホームページを活用し、学部・分掌からの情報発信の充実	学校評価アンケートの検証	・学校のアナログデータのアーカイブを継続し、各学部・分掌等によるブログの掲載を進め、学校の情報公開を活発に行うことができた。 ・各分掌、学部・学級からのたよりの発行、ブログ掲載や、学校HPにて情報発信ができた。		・問合せの多い情報をHPに掲載し、情報発信を充実させる。 ・アナログデータのアーカイブを継続し、図書・進路・地域支援だよりやPTA広報等を発行していく。
4	教職員が働きやすい職場環境づくり	教職員の勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進	各種アンケートの検証 教職員のストレスチェック結果の分析	・管理職が面談や校内巡回をとおして教職員の様子を観察している。 ・出退勤調査を実施し、業務や役割分担の見直しを行った。 ・集団分析で、仕事に対する注意集中が必要で負担を感じるが、対人関係や職場環境から満足度は高いという結果が出た。 ・メンタルヘルスハンドブックの配付や研修セミナー、相談窓口等について随時、情報発信ができた。	A	・安全衛生委員会で、安全衛生に関わる職員の役割分担を行う。 ・大きな学校行事がある時など、教員の仕事負担に合わせて、メンタルヘルスの情報提供を行う。 ・教職員数減が予想されることから分掌の再編成の検討と、業務・環境改善の取り組みを継続していく。
		ICTを活用した校務の効率化の推進	学校評価アンケートの検証	・ICT支援員と協力してTeamsやアプリ等の研修会を実施し、授業作りに役立ててもらうことができた。 ・校務や研究でTeamsやFormsを活用し、業務効率化を推進したが、ハイユースシステム・パソコンの導入に伴い、多くの障害が発生した。個々のケースを把握し、ヘルプデスクにつないで問題解決を図った。		・ハイユースシステム・パソコンの不具合を解決し、4月から導入される校務支援システムの情報提供を行い、スムーズな移行を図る。 ・教職員からのICT関連の質問が出しやすくなるような工夫、出された質問内容を共有できるように、Teamsの中に掲載していく。
		教師一人一人のライフステージや課題を意識した主体的な研修の推進	自己観察書や面接時の確認	・「山梨県教育振興基本計画」と「キャリアステージにおける教員等育成指標」を活用し、授業参観や面談を通じて、教員が各ステージに応じて学び続ける環境を整えた。 ・講師招聘研修会を実施した。研修MyPageの活用を推進し、入力可能な研修会を案内したり、日常的にさまざまな研修会や書籍等の紹介を行ったりした。		・教職員のニーズや本校の課題を適宜確認しながら研修会や書籍の紹介を行う。 ・研修MyPageの活用を促進し、研修会の案内や日常的な情報提供を行う。

学校関係者評価

実施日　（令和7年2月4日）

評価	意見・要望等
3	・教育課程については、自立活動から知的障害代替、教科への転換が進められている。移行の際には児童生徒の実態をよく吟味し、慎重に検討することが必要である。また、教科指導を自立活動と関連づけて考えることが重要である。 ・学習指導については、3つの観点から評価し、客観性、妥当性、信頼性を担保して説明できるとよい。自立活動との評価の違いを明確にし、指導と評価の方法を説明することが求められると思われる。 ・ICT活用については、視線入力やiPad、VOCAの活用が進んでおり、学校以外の家庭や事業所でも工夫して児童生徒の生活を豊かにするような使い方をしてほしい。また、オンラインを活用して児童同士の関わりを意識し、視線導入や遠隔教育を引き続き続けてほしい。 ・キャリアパスポートの作成を推進し、進路指導の充実が図られている。キャリアパスポートは自己理解を深めるためのものであり、これを重視して指導に当たることができるとよい。卒業後の進路については、多様な選択肢を検討し、生徒の希望を十分に配慮するとともに、個々の児童生徒に合わせたアプローチで指導を行い、保護者を含めた具体的な進路指導を推進していってほしい。
4	・防災やアクシデントへの対応について積極的に取り組んでいる印象がある。児童生徒の命を守るためにあけぼの医療福祉センターとの連携が図られており、今後も継続してほしい。災害時に医療が必要な児童生徒を優先して受け入れる体制や非常時の電源確保ができていることは重要であり、緊急時対応検討会を実施し、災害時の受け入れについて確認したことは良かった。引き続き年度ごとに連携会議を実施し、安全な学校生活を提供してほしい。避難対応計画は学校内で共有されている。地震、雪害、水害などのケース別の避難計画の確認をし、あけぼの医療福祉センターや地域との連携をさらに強化してほしい。 ・事故を未然に防ぐために、ヒヤリハット記録を収集・蓄積し、原因を分析して教員間で共有することが重要である。児童生徒の命に直結するため、教員は常に意識して行動している。今後も継続してほしい。ヒヤリハット事例を抽出し、対応策の検討ができるとよい。 ・給食、摂食指導について、安全に楽しく食事をするために、摂食指導医や栄養士と連携していることは良い取り組みである。
4	・インクルーシブ教育の推進により、小中学校の通常学級にも特別な支援が必要な子どもが在籍するようになった。また、特別支援学級に在籍する子どもの数も増加していることから、センター的機能の発揮がますます重要である。学校現場の多様なニーズを把握し、的確な支援を行ってほしい。 ・病弱対象の転入学については、在校生の保護者にも情報提供を可能な限り行うことを検討してほしい。病弱に係る高等部入学希望者への支援を推進し、就学相談の充実を図ってほしい。 ・ホームページやブログ発信により、学校の教育活動の様子が良く分かる。学校理解を進めるためにも、今後さらに充実に努めていけるとよい。DXを活用した情報発信を継続し、時代に合わせて個人情報に注意しながら引き続き活用していけるとよい。
4	・児童生徒の指導を充実させるためには、教員間の情報共有が欠かせない。そのための打ち合わせの時間が必要になるが、働き方改革とのバランスが課題である。優先順位を明確にし、重点的に取り組むことが必要である。 ・教員評価ではほとんどが95%を超えており、働きやすい職場環境であると感じる。管理職が教職員の健康管理を意識した働き方を確認し、必要に応じて早期に介入する体制が整っていると思われる。 ・メンタル面で不調をきたした場合のサポート体制を充実させ、勤務時間が超過しないよう健康に留意した対策を継続してほしい。 ・時間を効率的に使い、授業づくりや教材作製ができるよう努めることが求められる。児童生徒数の減少や通学生とセンター生の分離など、大きな課題があるが、これらの課題解決に向けて着実に取り組んでほしい。 ・授業参観では、教師が明るく優しい雰囲気の中で授業を行い、チームワークの良さが感じられた。様々な研修を実施し専門性の向上を図っていることに期待が持てた。今後も継続して、働きやすい環境づくりに取り組んでほしい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。